

町立中学校の再配置に向けた 意見交換会

～2校の思いがひとつの未来に～

令和8年7月
田原本町教育総務課

はじめに

本町では、急速に進行する少子化の影響を受け、子どもたちが切磋琢磨し、多様な考えに触れ合える教育環境を維持することが喫緊の課題となっています。

こうした状況を鑑み、これまでに「田原本町学校・幼稚園規模適正化検討委員会」において慎重な審議を重ねてまいりました。その結果、教育・保育環境の質的向上を図るため、北幼稚園の閉園、東小学校・北小学校・田原本小学校の統合、中学校の統合という、苦渋の、しかし未来を見据えた決断に至りました。

現状と課題

- ◆町が考える中学校１学年あたりの適正規模は「４～５学級」
これは、教科担任制における専門的な教員の配置、生徒が切磋琢磨できる学習・生活環境の維持を考慮。

町内生徒数の大幅な減少

北中学校開校時（昭56）１,６００人超 → 現在 約７００人

北中学校の適正規模未達

各学年約６０人、１学年あたり２学級と長期にわたり適正規模を大きく下回っている。
定数配置だけでは、教科の専門性を有する教員配置が困難。

田原本中学校も生徒数減少

令和元年 各学年６～７学級 → 現在 各学年４～５学級

学校運営の厳しさ

令和６年度に、両校の校長から統合の検討開始を求める要望書が提出



教育環境を抜本的に改善し、将来にわたって質の高い教育を提供していくためには、町立中学校を再度１校に統合することが最適である。

（田原本町学校・幼稚園規模適正化検討委員会からの答申）

配慮と支援

（田原本町学校・幼稚園規模適正化検討委員会からの抜粋）

統合校の設置

元々一つの学校であった背景や既存施設の活用を考慮し、統合後の生徒数を受け入れ可能な田原本中学校を統合校とすることが望ましい。

統合の時期

早い統合が望まれるが、統合後の学校運営を円滑に進めるために様々な調整や在校生への精神的負担を考慮した周知期間が必要。
遅くとも、令和１２年度までに統合するように努めること。

施設整備の検討

統合後の校舎については、既存の田原本中学校施設を最大限利用すること。
現在の施設状況や将来の教育ニーズを踏まえ建替えや大規模改修の検討を早期に開始する必要があるが、財政負担の平準化の調整を行うこと。

通学環境の安全確保

引続き自転車通学は可能とし、新たな通学路の設定と整備を適切に行うこと。

地域への情報提供

広報活動を通じて、丁寧な情報提供や意見交換会の場を設けること。

統合案

統合に際しての考え方

- 周知期間及び学校運営の調整に要する期間を可能な限り長く取る。
- 元々一つの学校であった背景を考慮し校名は田原本中学校とする。
- 統合後の生徒数が受入れ可能な既存の田原本中学校施設を最大限活用する。
- 制服・通学路の検討

令和１２年４月

- ◆田原本中学校と北中学校が統合し、現在の田原本中学校で新たにスタートする。
- ◆北中学校を閉校する。

統合後における課題

- 施設の老朽化が進行していることから、可能な限り早い段階で、建替えや大規模改修を検討する。
- 閉校となった北中学校の跡地利用

ご清聴

ありがとうございました

